

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 達成度判断基準 | 集計結果 | 分析及び来年度への展望《改善策等》 |
|--|---|----------------------------|--|---|---|
| <p>1 学習意欲を向上させ、個に応じた進路実現を確かなものにする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> タブレット等のICT機器の活用を進めながら、主体的・対話的で深い学びの視点による授業実践に努める。 </div> | <p>① 校内で全ての教員が研究授業・公開授業を行い、授業参観や校内外での研修を通して、タブレット等のICT機器を活用した、より効率的で効果的な授業を実践する。</p> | <p>教務課 情報科 各教科</p> | <p>他の教員の授業や中学校の授業を参考にタブレット等のICT機器を活用して、積極的に授業改善を行っているとする教員の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である ④ D 70%未満である</p> | <p>2月の教員アンケートで 63.6% D</p> | <p>今年度の重点目標に、タブレット等のICT機器を利活用して授業改善することを掲げた。数字は63.6%であるが、パソコンやタブレットを用いた授業が昨年度以上に多く見られるようになった。教科によっては毎時間生徒用タブレットを使っている授業もある。 生徒用タブレットの台数が今まで16台だったので、同時間に複数の授業で使用できないことがあった。新たに16台購入したので、次年度は活用の頻度を上げることができる。校内研修会の開催、実践の報告など普及に努め、わかりやすく魅力ある授業づくりを目指したい。</p> |
| | <p>② 「言語活動の充実」という共通のテーマで生徒の学力向上に繋がるより効果的な言語活動を授業実践を中心に学校全体で行う。</p> | <p>教務課 各教科</p> | <p>言語活動の充実を意識して、定期的に主体的・対話的な授業実践に取り組んでいる教員の割合が A 95%以上である B 85%以上である ③ C 75%以上である D 75%未満である</p> | <p>2月の教員アンケートで 81.8% C</p> | <p>「あてはまる」と「ややあてはまる」の合計は81.8%であるが、「あてはまる」だけにすると27.3%であった。しかし、多くの授業で、生徒が他の生徒と話し合ったり、自分の考えを発表したりする場面が見られるようになっている。今年1月から、全国各地の優れた実践授業を視聴できるサイトへの登録を行った。このプログラムなども活用して、継続して取り組んでいきたい。</p> |
| | <p>③ 家庭での学習習慣の定着をねらいとする効果的な課題を与え、定期テストと結びつけるなど計画的に学習する習慣をつける。</p> | <p>教務課 各学年 各教科</p> | <p>1日の学習時間（授業以外の学習時間）が2時間以上であると答える生徒の割合が A 50%以上である B 30%以上である C 10%以上である ④ D 10%未満である</p> | <p>2月の生徒アンケートで 7.3% D</p> | <p>定期試験1週間前は60%以上の生徒が2時間以上学習を行っている。（進路指導課調べ）しかし、それ以外の期間の学習時間が少ないことから、試験期間以外の時期においても学習する習慣を付けたい。そのために、学ぶことの楽しさを体感するような授業を実践し、学習することの意義を継続して伝えていくとともに、ICT等を活用して、家庭で1人でも学習しやすい環境を整備する。</p> |
| | <p>④ 進路シラバスを作成し、計画的なキャリア教育を行うとともに個人面談を継続的にやり、目標を明確化させ、有意義な高校生活を送るよう支援を行う。</p> | <p>進路指導課 各学年</p> | <p>本校でのキャリア教育が意義あるものとなっているとする生徒の割合が A 90%以上である B 85%以上である C 80%以上である ④ D 80%未満である</p> | <p>2月の生徒アンケートで 72.1% D</p> | <p>昨年の86.3%を下回る結果となった。本校のキャリア教育は専門業者に加えPTAや卒業生などの協力もいただいて行っているが、それぞれでの内容の重複や、「総合的な探究の時間」での取り組みとの時期のズレなどの課題があった。これらを調整し、3年間を通して体系的に生徒が自分の進路について考えることができる形を整えたい。</p> |
| <p>学校関係者評価委員会の評価</p> | <ul style="list-style-type: none"> 生徒の実態に即した中で、様々な知識やスキルを応用的・総合的に表現する実践を行うパフォーマンス系の課題に取り組みせると、生徒の思考力や表現力を高めることができる。そのツールとして、ロイロノートなどICT機器を活用すると効率的に生徒同士の考えを共有することができるので、効果も高まる。 教員が授業内容の動画をロイロノートに上げ、自宅で生徒に見てもらったり、学習した課題をロイロで提出したりするなど、スマートフォンなどを活用すると生徒の学習時間が伸びる。 すでに実施しているかもしれないが、ルーブリックを生徒に提示してから授業を行うと、生徒は、目指す目標が明確になり、それに向けた努力がしやすくなる。また、つまずきの実態も明確に捉えられ、次の目標をよりの確に設定することができる。さらに複数の教員で、評価基準について共通理解を図ることもできる。 | | | | |
| <p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策</p> | <ul style="list-style-type: none"> 令和2年度も教員全員が研究授業や公開授業を行うとともに、中学校や他校の公開授業参観などを通して、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を図る。 「総合的な探究の時間」などを通して、生徒が主体的に取り組み、学ぶ意欲を高める活動を充実させる。「総合的な探究の時間」等で、ルーブリックを提示し、生徒の学ぶ意欲を高める。 生徒用タブレットの台数が少なく複数の授業で使用できないことがあったので、次年度はタブレットの台数を増やすとともに、ロイロノートなどを今まで以上に授業に積極的に取り入れ、生徒の思考力・判断力を高める授業を行う。 校内でのタブレット活用の研修会の開催を複数回行うとともに、工夫された授業実践を共有・発信するなどを通して、わかりやすく魅力ある授業づくりを目指す。 生徒の大きな学力差に対応するために、習熟度別授業や放課後、土曜日に行っている補習授業・試験対策講座の内容を充実させる。 | | | | |

令和元年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢辰巳丘高等学校

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 達成度判断基準 | 集計結果 | 分析及び来年度への展望《改善策等》 |
|--|---|--------------------|--|----------------------------------|---|
| <p>2. 基本的な生活習慣や倫理観を確立し、豊かな人間性と社会性を確立する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin-top: 10px;"> 挨拶の励行、時間厳守、服装容儀の指導を教職員全体で取り組む。 </div> | <p>① 全教職員で協力し、時間の大切さを自覚させる一方、保護者との連携を図りながら遅刻の減少を目指すことで規範意識の高揚に努める。</p> | <p>生徒課 各学年</p> | <p>年間を通して遅刻5回以上の生徒数が ① A 25人以下である B 30人以下である C 35人未満である D 35人以上である</p> | <p>2月の調査で 25人 A</p> | <p>昨年度と同じ25人であった。今年度も悪天候の日が少なかったこともあり、例年のように冬に入って急激に遅刻者が増加することはない。朝学習強化週間や徹底した遅刻指導、保護者との協力体制構築などの取り組みを継続し、次年度は遅刻常習者の行動改善に繋がる取り組みを行っていく。</p> |
| <p>学校関係者評価委員会の評価</p> | <p>・毎朝、校長先生が玄関で挨拶や声かけをしてくださっていたことがありがたかった。 ・生徒の減少を止めることは難しいが、生徒および保護者の学校評価アンケートから、金沢辰巳丘高校に入学して、入学させてよかったと答えている割合が年々伸びていることから、金沢辰巳丘のよさを積極的にPRしていく方法を考えてほしい。 ・昨年3月から学校近くの交番で勤務しているが、金沢辰巳丘高校の生徒の案件はなかった。先生方の生徒指導が行き届いていると感じた。今後もこの状況が継続することを望んでいる。</p> | | | | |
| <p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策</p> | <p>・時間を守る、挨拶をしっかりと、TPOに応じた頭髪・服装を適切に選択するなど、社会生活の基本を生徒と共有するとともに、保護者と連携しながら必要な指導を行っていききたい。 ・生徒指導上の問題に対して、生徒課、教育相談室、各学年、管理職等、教職員と複数の外部機関が連携して対応するとともに、初期指導を強化して、問題を未然に防ぐ努力をしていきたい。</p> | | | | |

令和元年度 学校経営計画に対する最終評価報告書

石川県立金沢辰巳丘高等学校

| 重点目標 | 具体的取組 | 担当 | 達成度判断基準 | 集計結果 | 分析及び来年度への展望《改善策等》 |
|--|--|---------------------|---|---|---|
| <p>3 学校の魅力を更に磨き、生徒・保護者・地域から信頼される学校づくりを推進する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> 校種間交流や地域と連携した取り組みを積極的に行い、広報活動を充実させる。 </div> | <p>① 地域及び小中学校等との交流活動や各種の情報紙等による広報活動を通して、本校の教育活動への理解と協力を促進する。</p> | <p>総務課 各コース</p> | <p>各種の交流活動が活発であり、広報活動を通して学校の取り組みがよくわかると答える保護者の割合が A 95%以上である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である</p> | <p>12月の保護者アンケートで 90.7% B</p> | <p>生徒を通じての学校からの通知や配布物が確実に手元に届いていると答える保護者の割合が毎年低いので、昨年に引き続き、お知らせを出すたびにメール配信を行っている。今後もホームページの充実を図るとともに、重要な連絡等が確実に保護者に届くように生徒に伝えていきたい。</p> |
| | <p>② ホームページの更新により内容もさることながら即時性にこだわる一方、地域や小中学校等との交流や学校行事などを通して、本校の特色ある教育活動の様子を積極的に発信する。</p> | <p>総務課 各コース</p> | <p>担当する課や部活動等のホームページの更新回数は年5回以上であると答える教員が A 85%以上である B 75%以上である C 65%以上である D 65%未満である</p> | <p>2月の教員アンケートで 33.4% D</p> | <p>学年通信をホームページにアップしたり、その日あった行事や授業の様子をスクールライフとして更新する教員が増え、ホームページの更新回数は昨年より多くなっている。また、音楽専攻は活動の様子を動画で配信していることから、アクセス数も増加している。 年30回更新と答えた方もいたが、更新しなかった方もいたので、次年度はホームページの講習会を開き、その場で部活動などの内容の更新を図るようにしたい。</p> |
| | <p>③ 保護者の携帯電話のメール配信登録について登録完了届の提出を求めることで、100%を目指し、家庭との連携を深めて本校の教育活動の円滑化と活性化を図る。</p> | <p>総務課 各学年</p> | <p>メールを登録している保護者の割合が A 95%以上である B 90%以上である C 85%以上である D 85%未満である</p> | <p>2月の調査で 86.2% C</p> | <p>昨年度の92.3%から、登録件数の割合が若干減少している。行事などのお知らせばかりでなく、緊急時や災害時において有効な連絡手段であることから、メール登録の必要性を継続して保護者に伝え、100パーセント登録を目指して取り組んでいきたい。</p> |
| | <p>④ 地域に根ざした学校づくりを推進するため、生徒会が中心になり奉仕活動を展開し、地域の方々と積極的に関わる機会を増やす。</p> | <p>生徒課 各学年</p> | <p>生徒が近隣地域での各種ボランティア活動に参加する回数が A 65回以上である B 55回以上である C 45回以上である D 45回未満である</p> | <p>2月の調査で 53回 C</p> | <p>生徒会、部活動、音楽専攻、美術専攻の生徒を中心に近隣の学校や施設を訪問し、各種ボランティア活動をこれまで以上に行ったので、昨年度の49回を上回っている。中でも、JRC部が地域の保育園、金沢マラソン、百万石祭りなどでのボランティアを積極的に行ったことが増加した要因である。美術専攻は似顔絵イベントの他、来年度から近隣小中学校での「小さな辰巳丘美術館」の開催を予定している。また、金沢市が行っている「金沢絆の日活動」「雪かきボランティア」にも積極的に参加していきたい。</p> |
| | <p>⑤ 地域の方々や保護者とともに行う行事の中で生徒一人ひとりが充実感・達成感を得られるよう生徒自らが主体的に企画・運営する。</p> | <p>生徒課 各学年</p> | <p>学校行事や生徒会活動に積極的に参加していると答える生徒の割合が A 90%以上である B 80%以上である C 70%以上である D 70%未満である</p> | <p>2月の生徒アンケートで 71.1% C</p> | <p>7月のアンケートでは79.2%だった。辰巳祭など大きな行事の後のアンケートではほとんどの生徒が積極的に参加したという結果が出ている。文化祭以外の保護者ともに行う行事に、進んで参加する生徒が増えるように、生徒会が中心となり働きかけをしていきたい。</p> |

学校関係者評価委員会の評価

- ・芸術コースだけでなく、中国語を学べたりボランティアをしたり、公立高校ならではの温かさがここにはある。高校名を沢山出すなど、辰巳丘の存在を広く伝える取り組みをしてほしい。
- ・学校からの通知や配布物が自分（保護者）の手元に届かないことがある。連絡メール等で情報発信してほしい。
- ・金沢辰巳丘高校の卒業生はユニークな人が多いと感じている。個性的な人を育てる学校として、音楽や芸術を志している人に発信してほしい。
- ・2年生が行っているTGS（北陸大学と連携した探究活動）や金沢美術工芸大学との高大連携活動などについて、もっと発信すると生徒が増える要因になるのではないか。

学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策

- ・生徒会や部活動を中心とした地域との交流、中国語や音楽専攻、美術専攻の活動、授業など学校の様子をホームページや学校パンフレット、広報などで外部に積極的にアピールする。
- ・保護者へメール配信を徹底するとともに、ホームページの内容の充実を図る。また、重要な連絡等が確実に保護者に届くように生徒に伝えていきたい。
- ・北陸大学や金沢美術工芸大学との連携活動を継続・発展させるとともに、次年度は「小さな辰巳丘美術館」を開催し、近隣小中学校との交流を実施する。また、金沢市が行っている「金沢絆の日活動」「雪かきボランティア」の参加など、生徒が主体的に取り組む活動を充実させていきたい。

| 重点目標 | 具体的取組 | 主担当 | 達成度判断基準 | 集計結果 | 分析及び来年度への展望《改善策等》 |
|---|--|-----------------------------|--|---------------------------------------|--|
| <p>4 授業準備や自己研鑽の時間を確保し、より質の高い授業や個に応じた学習指導を行う。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>学校や教員が担う業務を整理し、実情に合わせて業務の役割分担・適正化を図り、多忙化改善に努める。</p> </div> | <p>① 職員の働き方を考え、工夫して、一人ひとりの子どもに丁寧に関わりながら、学習指導、生徒指導など、各自の業務に専念できる環境づくりを進める。</p> | <p>管理職 各課・室 各学年</p> | <p>組織が有機的に機能していると答える教員が</p> <p>A 80%以上である B 75%以上である C 70%以上である D 70%未満である</p> | <p>2月の教員アンケートで</p> <p>75.8% B</p> | <p>前期の教職員アンケートの69.7%より若干増加しているが、本校は学年毎に職員室が分散しており、物理的に学年をまたいだ協力体制がとりづらい。また、年々教員数が減少しているため、1人が担う役割が徐々に増えている。周りの人が担当している業務を知り、業務負荷が高いときに助け合える環境をつくるなど、学年・教科・課を超えて、お互いが様々な形で連携しながら、業務の平準化を図り、全員のワーク・ライフ・バランスを実現するために、取り組んでいきたい。</p> |
| <p>学校関係者評価委員会の評価</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・この3年間、先生方には大変手厚い指導をしていただき感謝している。少ない生徒数だからこそ、手厚い指導ができることをアピールしてほしい。 ・国際理解教育やプログラミング学習など、ぜひ協力したいので、関わらせてほしい。 ・来校して、大変魅力的な学校だと思った。組織のメンバーとも相談して、もっと支援していきたい。 | | | | |
| <p>学校関係者評価委員会の評価結果を踏まえた今後の改善策</p> | <ul style="list-style-type: none"> ・教職員のワーク・ライフ・バランスを実現するために、専門的な知識を持った外部人材の協力を得て、校務の遂行にあたっていきたい。 ・職員室が分散していることから、教員間のより一層の連携を図るために、若プロなどを含め、意見交換や情報交流を行う場の設定を増やしていきたい。 | | | | |